



まちのわだい

あなたの周りで起きた出来事や楽しい話題、イベントなどの身近な情報をお待ちしています。

▷問い合わせ 広報情報係
(☎223局3569)

子どもの健やかな成長を願う八朔の節句 はっさく

9月1日～27日 第15回筑前芦屋だごびーなとわら馬まつり

江戸時代から続く筑前芦屋の伝統行事「八朔の節句」。後世に伝え続けるために、だごびーなとわら馬の会の皆さんが中心となって、わら馬やだごびーな（団子雛）を芦屋釜の里やマリントラスあしやなど町内各所に展示しました。中央公民館では、最終日に来場者へわら馬をプレゼントしました。



郷土の味で元気に！「琥珀の空」カレーを寄贈 こはく

9月30日 芦屋町商工会×小中学校全ての生徒児童に1人1食

町内の小中学校4校の子どもたちが「コロナに負けない！」活力を持てるようにと、芦屋町商工会は芦屋町のサワラとヤリイカをふんだんに使ったシーフードカレー「琥珀の空」1200食を寄贈しました。これは航空自衛隊芦屋基地と芦屋町商工会のコラボ企画で誕生したご当地カレーです。受け取った児童たちは「家に持ち帰り、じっくり味わいたいです」と話していました。

みんなで協力して育てた気持ちを忘れないで

10月8日 「人権の花」運動感謝状贈呈式×山鹿小学校

「人権の花」運動は、児童が協力し合いながら花を育てることをとおして、互いに思いやりの心を育てるものです。山鹿小学校3年生の児童たちから、「ひまわりの種まきや水やりをして、きれいな花が咲いて、一つの花からたくさんの種がとれました」と報告があり、人権擁護委員から感謝状と記念品が贈られました。



ようこそ先輩！母校で後輩たちへ特別講演

10月19日 芦屋東小学校×卒業生・大橋岳さん

芦屋東小学校の卒業生で、中部大学で講師を務める大橋岳さんおおしがくが母校の児童たちに特別講演を行いました。大橋さんは野生チンパンジーの生態と保全の研究者で、アフリカでの暮らしや現地調査のことをスライドなどを使って教えてくれました。大橋さんは「この機会に、チンパンジーに関心を持って欲しい。日本に居ても、チンパンジーを守るためにできることはある」と話していました。





いつまでもお元気で

100歳おめでとう

満100歳を迎えた池田静江さんに、波多野町長からお祝い状などが贈られました。芦屋生まれで芦屋育ちの池田さんは芦屋町の小学校教諭をしていました。児童にとっても好かれていたようで、休みの日にはよく児童が家に遊びに来ていたそうです。「やればできる」、「根性」という言葉が好きで、心臓の病気で入院したときもリハビリを頑張り、入院前と変わらない体力を取り戻しました。今でも箸を使って食事をし、とても元気に過ごしています。

透明キャンドルの中にちいさな浜辺ができたよ

10月17日 ジェルキャンドル講座

今年3月以降、コロナ禍のため中央公民館ではほとんどの講座が中止となりました。ギャラリーあしやのワークショップも感染症対策を講じてようやく8月から開催できるようになりました。今回のジェルキャンドル講座では14人が参加し、小さなガラスの中に海や砂浜などの夏の風景を表現し、透明の美しいジェルキャンドルに仕上げていました。



九州豪雨災害復興支援イベントでみんな元気に！

9月26日・27日 屋台フェス2020 in 芦屋

屋台や特設ステージでのキッズダンスなどでにぎわう「屋台フェス2020 in 芦屋」がポートレース芦屋の駐車場で開催され、会場で集められた義援金12500円が日本赤十字社をとおして募金されました。主催した株式会社HSTマーケティングの皆さんは「復興支援が目的で行ったが、来場者にも喜んでもらえてとてもうれしい。売上金で購入した3000枚のマスクを小中学校に寄贈するので、感染予防に役立てて欲しい」と話していました。

稲刈りで実りの秋を体験

10月7日 稲作体験学習

小学5年生を対象に稲作体験学習が行われ、町内3小学校の133人が体験しました。鎌の使い方をJA北九青年部（芦屋支所）の人から教わると、児童たちは上手に刈っていました。芦屋小学校の吉永双葉さんは、「稲を手で刈るのは大変だけど、機械のコンバインは大量の稲を早く刈り取れるのがすごい。コンバインの設計にも興味が出てきた」と話していました。

